

愛媛考古学

第 28 号

(補遺)中四国地方における後期旧石器時代前半期の地域課題『四国地方』…	沖野 実	1 ~ 14
(補遺)高見I遺跡の再検討	沖野 実	15 ~ 32
愛媛県辻堂遺跡出土の壺形縄文土器	菅 百恵・幸泉満夫	33 ~ 36
弥生時代中期瀬戸内地方における凹基・平基式打製石鏃の主分布範囲 …	乗松真也	37 ~ 46
伊予の古代末～中世前半における手づくね土師器 －上島町弓削島東泉寺出土手づくね土師器を中心に－	青木聡志	47 ~ 60
伊予の懸仏 －久万高原町石墨神社懸仏を中心に－	十亀幸雄	61 ~ 72
松山城三之丸跡出土の火打石について	畠中航志	73 ~ 80
遊子監視哨と日振島監視哨の記録	多田 仁	81 ~ 90
愛媛県外所在の考古資料(2) －フランス・ギメ国立東洋美術館の須恵器について－	光江 章	91 ~ 100
【新刊紹介】 春成秀爾著『始原のヴィーナス－旧石器時代の女性象徴－』…	十亀幸雄	101 ~ 103

2024

愛媛考古学協会

松山城三之丸跡出土の火打石について

畠中 航志

1 はじめに ―問題の所在―

松山城三之丸跡（県民館跡地）からは近世後期～幕末期に相当する火打石が数多く出土している（土井・門田編2000）⁽¹⁾。しかしながら、それら資料はごく少数が写真図版として掲載、報告されているのみであり、未だ図示公開を含めた十分な検討は成されていない。

以下、本稿では未公開火打石群のうち、主要の52点を一挙、図示公開するとともに、今後に向けた若干の予備的考察も行っておきたい。

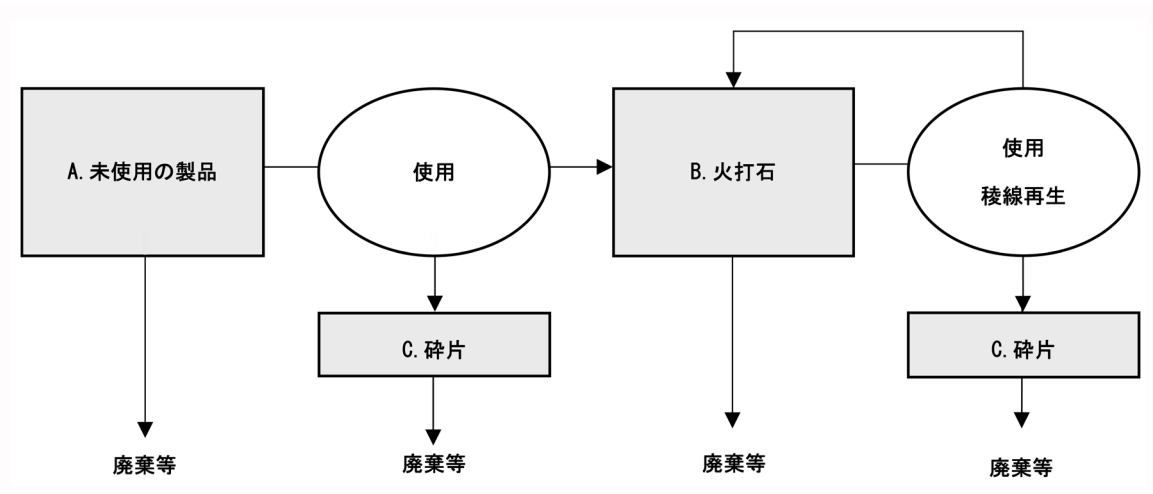
2 火打石をめぐる関連学史(抄)

火打石とは、一般に「打撃式発火法に用いられる固い石」のことをいう（小林2020）。高嶋幸男（以下、敬称略）は、出土した発火具を全国的に集成・分析、火打石研究に先鞭を付けた（高嶋1985）。1980年代頃から江戸時代に関する行政発掘事例が増大する。これは、出土した火打石が考古学上の遺物として広く認識されはじめたことに起因しよう。その後、北野隆亮（北野2000）や小林克（小林・松崎2001）、藤木聡（藤木2014）等によって考究が深められているように、いくつかの地域では、ある程度、様相が明らかにされつつある。けれども、全国レベルでの火打石研究はまだ未着手に近い状況下であり（小林2015）、当該伊予地方に関しても、徳島県大田井産のチャート製火打石にのみ焦点を絞った、概観的な報告記載にとどまっているのが現状である（土井・門田編2000）。

3 松山城三之丸跡出土の未公開火打石資料

最初に第1図として、これまでの小林、藤木の業績をもとに、松山城三之丸跡出土の火打石に関する分類図を作成した（小林2015、藤木2022）。その、入手から廃棄に至るまでのプロセスを視座に、使用されるまでの“A.未使用の製品”、使用途上にある“B.火打石”、使用時の打ち欠けや、稜線を再生する際に生じる“C.碎片”の3つに大別できる⁽²⁾。以下の未公開資料群について、同分類に沿って法量、石材、色調等、所見を述べていきたい。

第2～4図は、松山城三之丸跡出土の火打石の実測図である⁽³⁾。



第1図 松山城三之丸跡出土火打石群の分類

1～40、42は火打石と推察される一群である。1は、あかるいグレイみの緑色を呈し、赤紫色の節理が入るチャート製資料である。法量1.7cm×1.7cm×0.9cm・重量3.02gを量り、縁辺部に使用痕が観察される。2はグレイみの緑色を呈し、黒色の節理が入るチャート製資料である。法量1.9cm×1.5cm×0.9cm・重量3.06gを量る。3は、緑みのグレイ色を呈するチャート製資料である。法量1.7cm×1.3cm×1.1cm・重量2.72gを量る。縁辺部に使用痕が顕著に観察される。4～6は、グレイみの緑色を呈するチャート製資料で、4には黒色の節理が入る。法量は順に2.2cm×1.5cm×1.0cm・重量4.00g、1.4cm×1.4cm×1.2cm・重量2.68g、1.9cm×1.6cm×1.3cm・重量3.99gを量り、5・6の縁辺部には使用痕が顕著に観察される。7は、あかるいグレイみの緑色を呈し、黒色の節理が入るチャート製資料である。法量2.1cm×1.3cm×0.7cm・重量3.92gを量り、縁辺部に使用痕が観察される。8は、グレイみの緑色を呈するチャート製資料である。法量2.8cm×1.5cm×1.2cm・重量5.97gを量る。縁辺の全周、稜線ともに使用痕が顕著に観察される。9は、あかるいグレイみの緑色を呈するチャート製資料である。法量1.8cm×1.7cm×1.2cm・重量4.34gを量る。

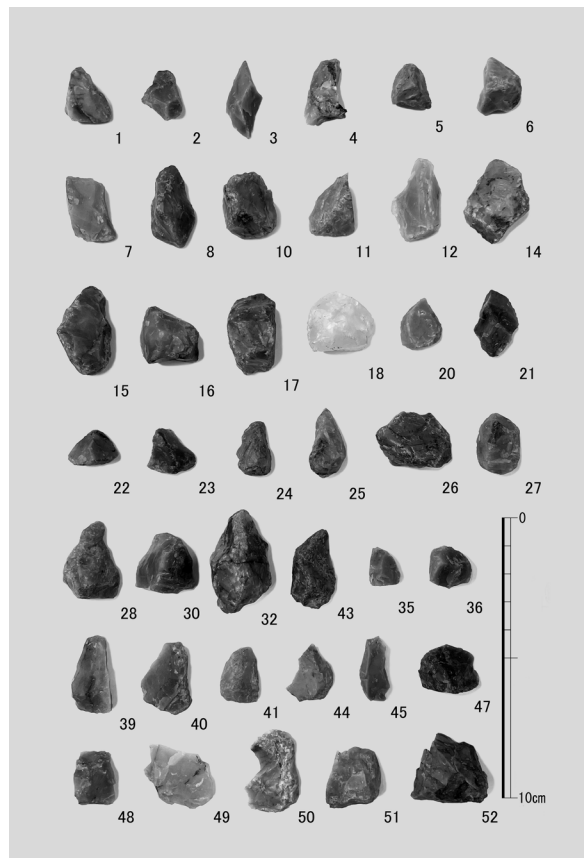
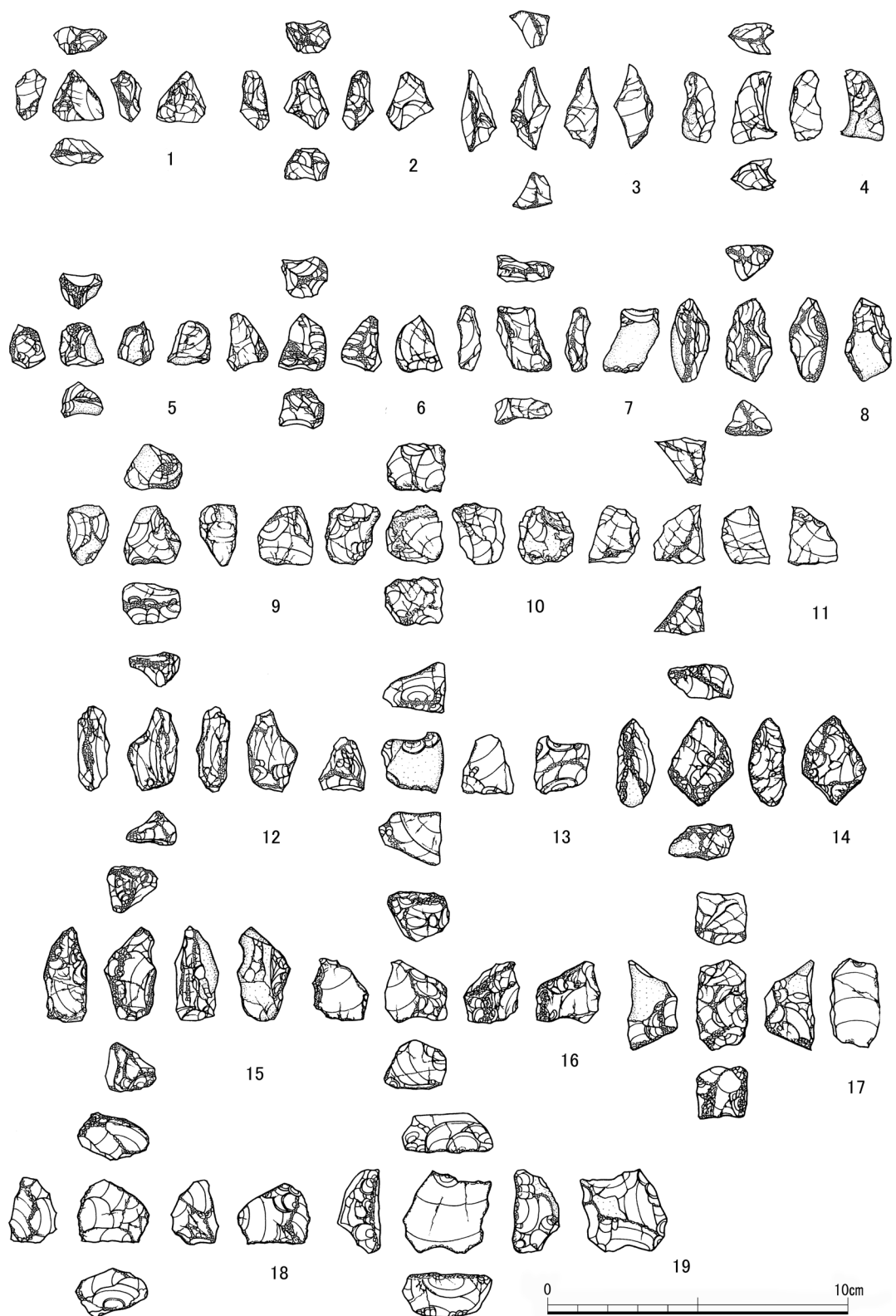
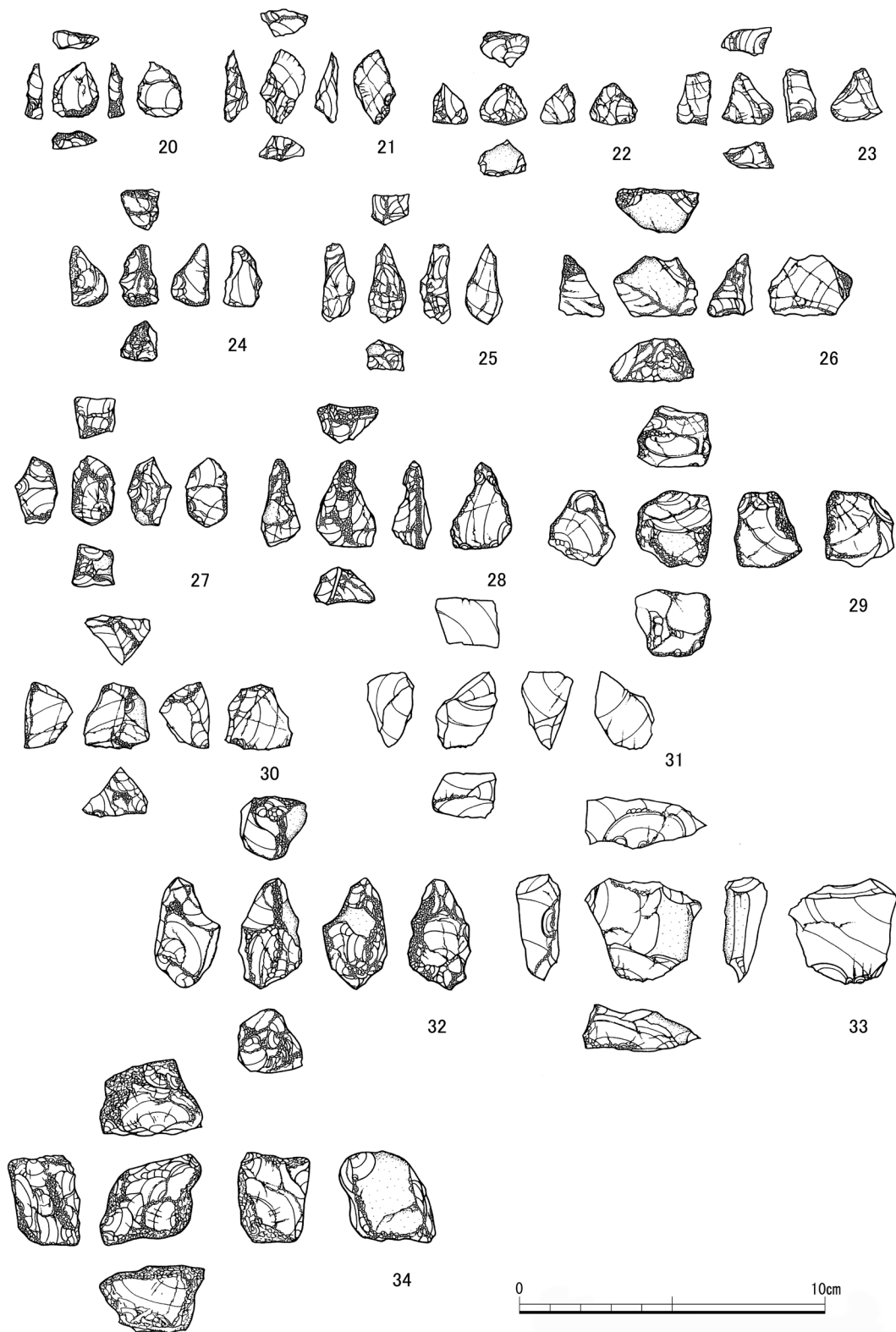


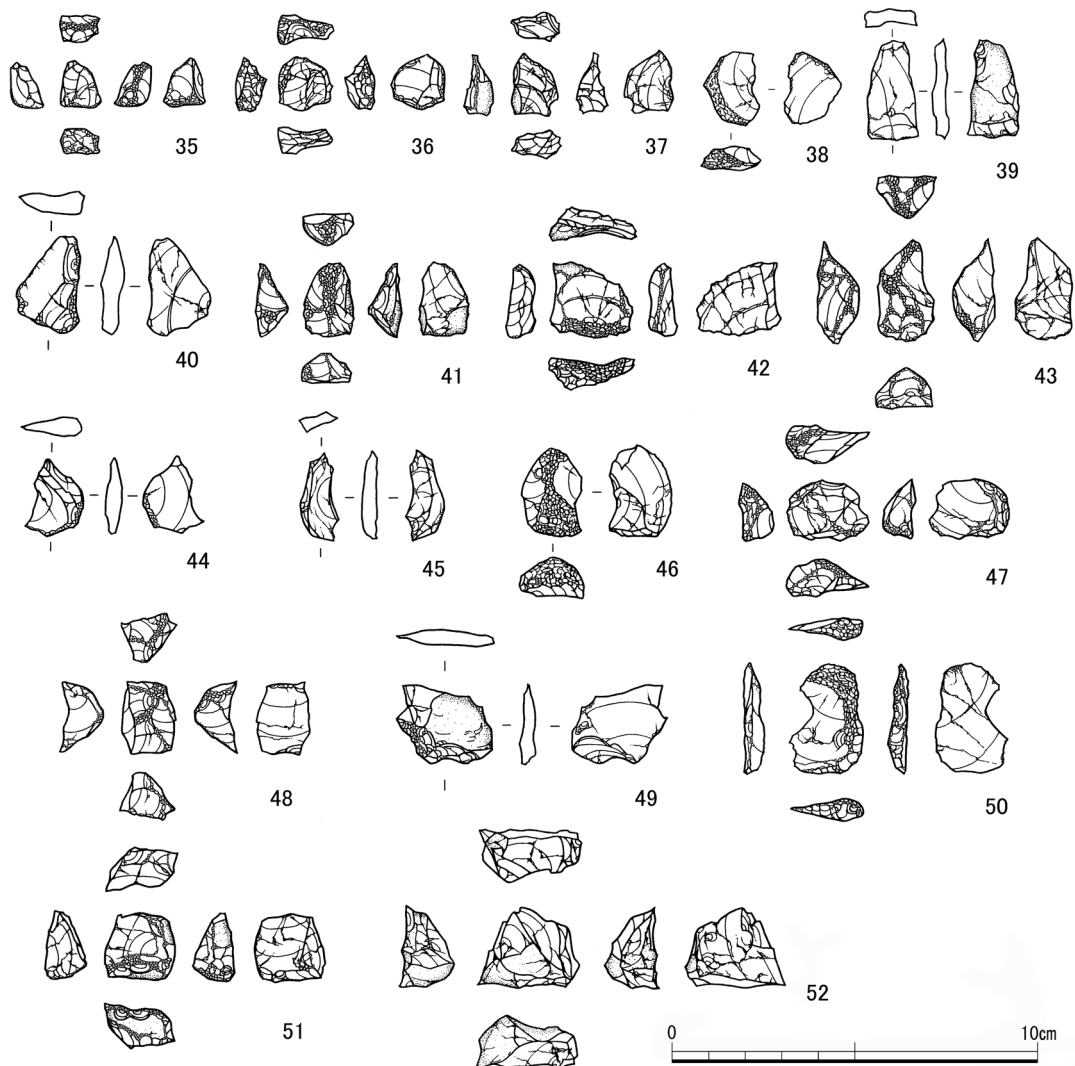
写真1 松山城三之丸遺跡出土の火打石(1)



第2図 松山城三之丸遺跡出土の火打石実測図(1)



第3図 松山城三之丸遺跡出土の火打石実測図(2)



第4図 松山城三之丸遺跡出土の火打石実測図(3)

縁辺部に使用痕が観察される。10はグレイみの緑色を呈し、黒色の節理が入るチャート製資料である。法量 $2.0\text{cm} \times 1.9\text{cm} \times 1.7\text{cm}$ ・重量 8.39g を量る。縁辺の全周、稜線ともに使用痕が顕著に観察される。11は、あかるい緑みのグレイ色を呈するチャート製資料で、法量 $1.9\text{cm} \times 1.7\text{cm} \times 1.3\text{cm}$ ・重量 4.63g を量る。縁辺部に使用痕が観察される。12・13はグレイ色のチャート製資料である。法量は順に $2.7\text{cm} \times 1.7\text{cm} \times 1.0\text{cm}$ ・重量 5.34g 、 $1.8\text{cm} \times 1.8\text{cm} \times 1.6\text{cm}$ ・重量 4.82g を量る。うち12は、縁辺の全周、稜線ともに使用痕が顕著に観察される。14は、緑みのグレイ色、15～17は、グレイみの緑色を呈するチャート製資料である。法量は順に $2.9\text{cm} \times 2.2\text{cm} \times 1.2\text{cm}$ ・重量 8.52g 、 $3.1\text{cm} \times 1.7\text{cm} \times 1.4\text{cm}$ ・重量 9.56g 、 $2.6\text{cm} \times 2.1\text{cm} \times 1.8\text{cm}$ ・重量 8.76g 、 $3.0\text{cm} \times 1.7\text{cm} \times 1.7\text{cm}$ ・重量 11.41g を量る。うち、14～16には縁辺の全周に使用痕が顕著に観察される。18は稀有な白色半透明の石英製資料である。法量 $2.1\text{cm} \times 2.4\text{cm} \times 1.5\text{cm}$ ・重量 9.30g を量る。縁辺の全周に使用痕が顕著に観察される。19・20は、あかるいグレイみの緑色を呈するチャート製資料である。法量は順に $2.4\text{cm} \times$

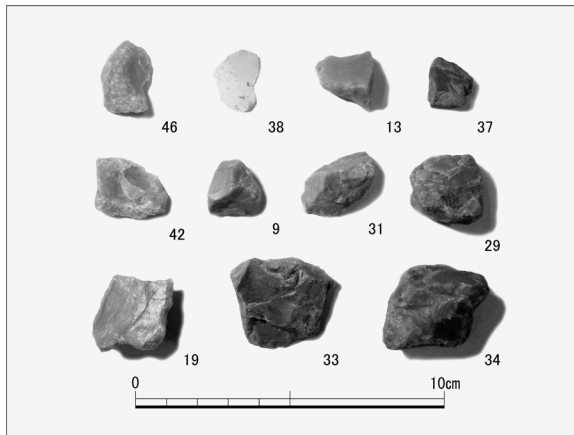


写真2 松山城三之丸遺跡出土の火打石(2)

2.6cm×1.3cm・重量9.36g、1.8cm×1.5cm×0.6cm・重量2.02gを量る。うち、19には黒色の節理が入り、剥離面がなす稜線の全周に使用痕が顕著に観察される。21は、黒色の節理が入る緑みのグレイ色、22・23はグレイみの緑色を呈するチャート製資料である。法量は順に2.4cm×1.4cm×0.7cm・重量2.70g、1.3cm×1.5cm×1.1cm・重量2.35g、1.7cm×1.7cm×1.0cm・重量2.11gを量る。24は緑みのグレイ色を呈し、黒

色の節理が入るチャート製資料である。法量2.0cm×1.3cm×1.2cm・重量3.40gを量り、縁辺の全周に使用痕が顕著に観察される。25・26はグレイみの緑色を呈し、いずれも黒色の節理が入るチャート製資料である。法量は順に2.6cm×1.2cm×1.0cm・重量3.80g、2.0cm×2.7cm×1.3cm・重量7.60gを量り、縁辺部に使用痕が観察される。27・29は、あかるいグレイみの緑色、28は、グレイ色を呈するチャート製資料である。法量は順に2.2cm×1.4cm×1.4cm・重量5.42g、2.8cm×2.0cm×1.3cm・重量6.40g、2.2cm×2.2cm×2.1cm・重量11.56gを量る。27～29はいずれも縁辺の全周、稜線ともに使用痕が顕著に観察される。30は、緑みのグレイ色、31は、グレイみの黄色を呈するチャート製資料である。法量は順に2.1cm×2.2cm×1.6cm・重量7.61g、2.3cm×2.0cm×1.4cm・重量6.17gを量る。うち、30の縁辺部に使用痕が観察される。32は、緑みのグレイ色を呈し、黒色の節理が入るチャート製資料である。法量3.6cm×2.1cm×2.1cm・重量15.94gを量り、縁辺の全周、稜線ともに使用痕が顕著に観察される。33は、あかるいグレイみの緑色、34はグレイみの緑色を呈するチャート製資料である。法量は順に3.2cm×3.2cm×1.4cm・重量14.01g、2.7cm×3.1cm×2.3cm・重量19.47gを量る。うち、34は縁辺の全周、稜線ともに使用痕が顕著に観察される。35は、あかるいグレイみの緑色、36は、グレイみの緑色を呈するチャート製資料である。法量は、順に1.3cm×1.1cm×0.9cm・重量1.34g、1.5cm×1.5cm×0.8cm・重量1.95gを量る。37は稀有な、赤みのブラウン色を呈するチャート製資料である。法量1.6cm×1.3cm×0.7cm・重量1.62gを量る。38は稀有な白色半透明を呈する石英製資料で、法量1.9cm×1.5cm×0.7cm・重量1.82gを量る。縁辺部に使用痕が観察される。39は緑みのグレイ色、40はグレイ色を呈するチャート製資料である。法量は順に2.7cm×1.4cm×0.3cm・重量2.19g、2.6cm×1.8cm×0.6cm・重量2.87gを量る。いずれも縁辺部に使用痕が観察される。42はグレイみの緑色を呈するチャート製資料である。法量2.0cm×2.2cm×0.9cm・重量3.30gを量る。縁辺部に使用痕が顕著に観察される。

41、43～51は、火打石の碎片と推察される一群である。41は、あかるいグレイみの緑色を呈するチャート製資料で、法量2.0cm×1.4cm×0.9cm・重量2.49gを量る。43は、緑みのグレイ色を呈

し、黒色の節理が入るチャート製資料である。法量 $2.7\text{cm} \times 1.5\text{cm} \times 1.2\text{cm}$ ・重量 5.12g を量り、稜線に使用痕が顕著に観察される。44は、あかるいグレイみの緑色、45は、緑みのグレイ色、46は、グレイみの緑色を呈するチャート製資料である。法量は順に $2.1\text{cm} \times 1.6\text{cm} \times 0.4\text{cm}$ ・重量 1.48g 、 $2.4\text{cm} \times 1.1\text{cm} \times 0.4\text{cm}$ ・重量 1.08g 、 $2.3\text{cm} \times 1.7\text{cm} \times 0.9\text{cm}$ ・重量 3.44g を量る。うち、46には稜線に使用痕が観察される。47は、くらい緑みのグレイ色、48は、あかるいグレイみの緑色を呈するチャート製資料である。法量は順に $1.7\text{cm} \times 2.2\text{cm} \times 0.8\text{cm}$ ・重量 3.66g 、 $1.9\text{cm} \times 1.5\text{cm} \times 1.0\text{cm}$ ・重量 3.30g を量る。いずれも稜線に使用痕が観察される。49は、あかるい緑みのグレイ色、50・51は、緑みのグレイ色を呈するチャート製資料である。うち50には黒色の節理が入る。法量は順に $2.1\text{cm} \times 2.6\text{cm} \times 0.4\text{cm}$ ・重量 2.22g 、 $3.0\text{cm} \times 2.0\text{cm} \times 0.5\text{cm}$ ・重量 3.45g 、 $1.8\text{cm} \times 1.9\text{cm} \times 1.1\text{cm}$ ・重量 4.93g を量り、50・51の稜線には使用痕が観察される。

52は、グレイみの緑色を呈し、黒色の節理が入るチャート製資料である。未使用の火打石と推認される。法量 $2.2\text{cm} \times 2.8\text{cm} \times 1.4\text{cm}$ ・重量 7.90g を量る。

4 成果と展望

以上の通り、本稿では、松山城三之丸跡出土の火打石52点について図示公開を果たすとともに、基本情報の共有を進めてきた。検討の結果、つぎに示す成果を導出できたとともに、新たな課題も浮上してきている。以下、順にみておこう。

まず、松山城三之丸跡では徳島県大田井産と推認できる青緑色チャート製の火打石が卓越する。さらに、ごくわずかながら白色半透明の石英製、愛媛県南部産と推察される赤色系（赤ブラウン色）チャート製の資料等が含まれていた。これは同遺跡において、主に遠隔地産の石材が火打石として搬入され、消費されていたことを明示しよう。

また、資料群には、稜線再生時の碎片が多く含まれていた。使用に耐えうる稜線すべてが使用され尽くされた火打石等も確認できている。こうした、稜線が使用し尽くされた火打石の法量の平均は、長さ 2.5cm 、幅 2.0cm 程度を示していた。このことから、上記の値が、廃棄に至るおおよその目安と推認できるだろう。ただし、新しい火打石の入手等によって、火打石が廃棄される場合も考えられることから、上記値が実用限界の絶対基準とまではならないことは無論であろう。

松山城三之丸跡（武家屋敷地）出土の火打石に関しては、重量 5g 以下の資料の比率が高く、小片となるまで長期的に使用されていたことが、既に香川県の蔵本晋司によって指摘されている（蔵本編2019）。本稿でも図示説明してきたように、確かに 5g 程度の小片にも、新鮮な剥離面がなす稜線の一部に、使用痕の観察できる個体が散見できたことから、蔵本による指摘の妥当性を裏付けているともいえるだろう。

今回取り上げなかった未整理の碎片資料についても今後、検討を深めていく必要がある。ま

た、同じ松山平野内における、ほぼ同時期の農村集落遺跡である井門Ⅱ遺跡から多量に出土している火打石類に関しても、現在検討を進めているところであり、今後の継続課題としておきたい。

ここでは未公開資料群の図示公開と、若干の問題提起を行えたことで当初の目的は達成されたものと捉え、ひとまずは擱筆としておきたい。

(2024年4月30日)

謝辞

本稿作成にあたり、幸泉満夫先生からはたいへん丁寧なご指導、ご助言の数々を賜って参りました。また愛媛県教育委員会、愛媛県埋蔵文化財センターの皆様にも、大変お世話になりました。末筆ながら、記して感謝申し上げます。

註

- (1) 愛媛大学法文学部の考古Ⅱ、幸泉研究室では2022～2023年度の間、愛媛県教育委員会及び愛媛県埋蔵文化財センターのご理解とご協力により、これら未公開、未実測の火打石のうち今回、計52点を借用のうえ、本誌等への図示公開を前提とした調査研究を進めることにした。本稿は、その成果の一部を速報するものである。
- (2) 火打石の分類については、新鮮な剥離面がなす稜線に使用痕が確認できるものは、火打石としての使用を継続したものとし、「A.火打石」に分類した。
- (3) 石材の色調については、太田昭雄ほか編 1981『標準色彩図表A』の分類基準に従った。

参考文献

- 北野隆亮 2000「畿内とその周辺地域に於ける火打石の流通－和歌山平野及び奈良盆地出土資料の分析から－」『和歌山地方史研究』第38号 和歌山地方史研究会 pp.2-13
- 蔵本晋司編 2019『上林遺跡』香川県教育委員会
- 小林 克・松崎亜砂子 2001「火打石研究の現状と今後－近世遺跡出土の火打石からの追究－」『日本考古学協会第67回発表資料』日本考古学協会 pp.124-127
- 小林 克 2015「火打石研究の展望」『考古学研究』62-3 考古学研究会 pp.21-25
- 小林 克 2020「火打石研究の課題と展望－江戸遺跡の事例から－」『江戸遺跡研究』第7号 江戸遺跡研究会 pp.1-10
- 高嶋幸男 1985『火の道具』柏書房
- 土井光一郎・門田智美編 2000『史跡「松山城跡」内 県民館跡地』愛媛県埋蔵文化財調査センター
- 藤木 聡 2014「発掘された火起こしの歴史と文化」『宮崎県文化講座研究紀要』第40輯 宮崎県立図書館 pp.23-45
- 藤木 聡 2022「古代・中世・近世の日向における火打石－基礎研究の報告(1)－」『研究紀要』第7集 宮城県埋蔵文化財センター pp.25-40

挿図版典拠

第1～4図：畠中実測清浄レイアウト。写真1・2：畠中撮影・レイアウト(各掲載許可済)。

編集後記

このたび、『愛媛考古学』28号を刊行することができました。平素よりご多忙の中、ご執筆いただいた各人に、事務局一同、まずはお礼を申し上げます。

今回、総勢9名、論文・報告等の数は10本を数え、内容も旧石器時代から近現代までと多岐にわたり、大変充実したものとなりました。

次号以降も会員の皆様の熱意のこもったご投稿をお待ちしております。また、新規会員も募集しております。入会していただけた方がいらっしゃいましたら、お声がけいただければ幸いです。

それでは、今後も、この『愛媛考古学』が会員の皆様の情報交換と研究発信のため活用されるよう、そして当会が益々活性化できるよう、会員一同、本誌の充実に努めてまいりたいと思いますので、皆様方のご協力をどうかよろしくお願いいたします。

最後に、お知らせです。すでにブログの更新が滞っておりますが、これにつきましても引き続き温かい目で見守っていただければと思います。

🌐 <https://ehime-koukogaku1958.hatenablog.com/>

それでは、次回29号でお会いしましょう。

(す)

【愛媛考古学協会役員】

会長：岡田敏彦

副会長：清水真一・兵頭 勲

事務局委員：石貫弘泰・沖野 実・首藤久士

会計幹事：井出耕二・土岐幸司

名誉会長：名本二六雄

愛媛考古学協会

第28号

令和6(2024)年12月28日

編集・発行 愛媛考古学協会 会長 岡田敏彦

印刷 有限会社ニシダ印刷製本

〒590-0965 大阪府堺市堺区南旅籠町東4-1-1
